

北海道1300人会員を必ず達成

全国2万会員特別期間3月1日～6月30日



「ロシアはウクライナ侵略やめよ」と訴える江別市民 3月19日 江別市大麻駅南口前（記事2頁）

道本部常任幹事会 4月22日(金)11時～衆議院第一議員会館
国会請願 5月11日(水)11時～衆議院第一議員会館

2022年3月1日

ロシアのウクライナへの侵略に断固抗議し、即時撤退を要求する

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟北海道本部

ロシア軍は2月24日、ウクライナへ侵入し、首都キエフはじめ各地へ戦車が入り、本格的な侵略戦争を開始した。これはウクライナの主権を侵害し、市民の命と暮らしと安全を破壊するもので、断じて許すことはできない。

プーチン大統領はまた「ロシアは核保有大国である」ことを強調している。これは「核兵器禁止条約」が禁止した「威嚇」であり、断じて許すことはできない。

私たちは、プーチン大統領の大國主義、覇権主義を糾弾し、「ロシアは、国連憲章を守り、ウクライナ侵略を直ちにやめ、即時撤退せよ」と要求する。

さらに、「再び戦争と暗黒政治を許すな!」「憲法9条守れ」を掲げ、50年余、闘ってきた私たち「治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟」は、ロシアのウクライナ侵略を受けて、日本維新の会元代表の橋下徹氏や安倍晋三元首相らが「敵基地攻撃能力」、「打撃力」を持つべきだと主張し、核兵器使用までをも公言していることに対し断固抗議し、直ちに撤回することを要求するものである。



(574号付録)
北海道版 No.472

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
北海道本部

編集発行人 宮田 汎
〒065-0018 札幌市東区北18条
東15丁目3-6ブランノワールF101号
電話 011(374)8280
FAX 011(374)8281
郵便振替・02740-7-24209

ロシア軍はウクライナから撤退を

小樽、岩見沢、江別、旭川で抗議行動

【小樽後志】3月14日、支部は「ロシアのウクライナ侵攻反対」の街頭宣伝をしました。5~6人の人が家から出てきて最後まで訴えを聞いてくれ、拍手をしてくれました。これまでの街宣になかったことですと、北田健二・支部事務局長は語っていました。

【岩見沢】同盟南空知支部も加入している「戦争法廃止を目指す岩見沢の会」が3月12日、岩見沢市の中心街で「ロシアは直ちにウクライナから撤退せよ」とスタンディング抗議行動を行い、37人が参加しました。行動の司会を務めた千石信弘・同盟支部事務局長は「国際的な世論が大きくなればロシアも戦争をやめざるを得なくなる」と活動継続を強調しています。この模様を「北海道新聞」空知地方版はカラー写真を付けて報道しました。

【江別】3月12日午後、国道12号線沿いの中心街で、日本共産党江別市委員会の呼びかけで、「ロシアは撤兵を」等のプラカードを掲

げて抗議行動を行い、同盟会員も含む30人が参加しました。ウクライナへの支援募金には小学生ら数人が、お小遣いを出しあって募金をしてくれるなど、2万円近い募金が寄せられました。

19日には、大学生や高校生ら若者の通行が多い大麻駅南口前で、9条を考える江別実行委員会の呼びかけで、会員ら26人が参加、訴えに若い人が耳を傾けてくれました。同盟の宮田汎道本部会長は、両日ともにマイクを持ち、終戦後、自身が、権太でソ連軍の空爆や潜水艦攻撃に追われて、引き揚げてきたことに触れ、ウクライナの人々への連帯の思いと憲法9条を持つ日本こそ反戦の先頭に立とうと訴えました。

【旭川】九条の会などの呼びかけで、3月3日、5日、12日、19日にロシアのウクライナ侵略許すなと街頭行動をしました。今後も毎土曜日13時から1条平和通買物公園で行うことです。

国会請願目指し署名目標を必ず

街頭で、集会で、戸別訪問で

寒風の中、スーパー前で

1時間で65筆寄せらる

菊池・桜井両氏市議当選

【苦小牧】支部事務局の竹田孝夫、佐藤昭子、高畠重雄さんの3人は、

2月25日、スーパー前で国賠署名を訴えました。約1時間で65筆が寄せられました。寒風の中、何と

しても署名前進との熱意に頭が下がります。支部の署名は、目標の69%になりました。支部の署名は、目標の69%になりました。

【南空知】支部は、目標の1500筆個人署名をやり抜こうと頑張っています。新婦人岩見沢支部7班から団体署名と個人署名70筆、夕張の安部秀一さんから35筆、栗山から50筆などが寄せられ個人署名753筆、目標の50%を超みました。南幌、長沼からは署名用紙を送つてほしいとの電話など、国会請願に代表派遣を呼びかけている南空知、燃え

ています。

重税反対の集会で57筆

【北見】3月27日投票で行われた市議選、菊池豪一、桜井ゆみこ両

同盟会員が当選しました。おめでとうございます。その忙しい中、支

部は同盟活動を忘れずとに、一寸の時間でも署名活動をと訴えました。3月11日の重税反対集会には4人の幹事が腕章付けて、短時間でしたが行動、57筆を集めました。

国賠署名の目標と達成状況

2022年4月1日現在

支部名	団体署名		個人署名		
	目標数	到達数	目標数	到達数	到達率
札幌	400	25	8000	1694	21.2%
小樽後志	50	12	1500	155	10.3%
道南	150	1	2000	320	16.0%
室蘭	30	26	500	98	19.6%
道北	300	0	3000	25	0.8%
十勝	100	4	2000	280	14.0%
釧路	150	5	2500	196	7.8%
南空知	50	17	1500	753	50.2%
苦小牧	80	48	2000	1380	69.0%
北空知	60	3	1500	55	3.7%
北見	70	44	2500	893	35.7%
道本部	50	1	1000	486	48.6%
合計	1570	186	31500	6335	20.1%

「ロシアのウクライナ侵略に断固抗議する」

札幌はロシア大使館等に抗議 鋤路も声明

【札幌】支部は、3月7日付でロシア大使館等に対し、「支部常任幹事会」の名で「ウクライナ侵略に断固抗議する」との「抗議文」を送りました。その一部を紹介します。

—2022年2月24日、ロシアは突然ウクライナ侵攻を開始しました。これは、国連憲章、国際法を踏みにじる紛れもない侵略行為である。すでにウクライナ国内の避難者数は150万人に達し、国外脱出者も相次いでいる。子供を含むウクライナ市民の犠牲者は増えつつある。しかもロシアのプーチン政権は、この侵略行為にあたつて、自分が核兵器大国であることと誇示し、核兵器でもって世界の諸国を威嚇した。核兵器禁止条約を発効させた国際世論もあるなかで、この無差別殺戮手段を誇示する恫喝行為は絶対に認められない。広島・長崎の惨禍を知る私たちにとっても断じて許されるものではない。(中略)

治安維持法犠牲者国家賠償要求

同盟は、かつて言論統制に始まる治安維持法によつて多くの国民が犠牲になり、無謀な戦争に突入しました反省から、今回の事態は決して他人ごとではなく、私たちが生き

他に断固抗議し、併せて断固「日本国憲法を守る」と声明を出しました。

小樽、苫小牧で新会員を迎える

「ロシアのウクライナへの蛮行許さない」も語つて

8名の目標決めて4名入会
事前にお便り出して訴え

【小樽後志】先の支部総会で、8人増やし70人の支部建設を決めた

支部は、友人・知人に、事前にお便りを送つて入会を勧めました。その後の訴えで北田健二事務局長、大黒和夫支部長らで4名を拡大しました。北田さんの古くからの友人は、待ち構えていたように快く入会されたとのことです。ロシアのウクライナ侵略を許さない、プーチンと同じ姿勢の安倍元

と齊藤由子さんの訴えで、女性1人が入会されました。

【苫小牧】事前にお便り出して訴え

と齊藤由子さんの訴えで、女性1人が入会されました。

13人から2万2千円 ウクライナ支援募金

南空・千石さん訴えて

集会・催し案内

4月22日(金)11時(道本部常任幹

事会。於道高校センター。

3月6日付「赤旗」の「ウクライナ支援募金への協力を」に応え

4月23日(土)13時半(北空知支部

総会。於滝川市共同センター。

3月6日付「赤旗」の「ウクライナ支援募金への協力を」に応え

4月30日(土)14時(野呂栄太郎没直ちに撤退せよ」「ウクライナ支

援募金へご協力下さい」と書き、

5月11日(水)11時(国会請願。衆

院第1議員会館大会議室。

5月15日(日)相沢良没後碑前祭。

於札幌市西区平和の滝公園相

り、軍事的支配や戦争・内戦に対する世界の人々に連帯の意を表するものである。(下略)

「紹介議員になつてほしい」と申し入れ

畠山忠弘・苫小牧支部長、山岡達丸事務所へ

【苫小牧】事務局の畠山忠弘さん

が寄せられ7日送金しました。

呂栄太郎碑小公園。

5月11日(水)11時(国会請願。衆

院第1議員会館大会議室。

5月15日(日)相沢良没後碑前祭。

於札幌市西区平和の滝公園相

沢良碑前。

北の群像



「命と健康を守るために闘つた

桟敷よし子 (ジョセフайн)

桟敷よし子は、1902（明治35）年札幌に誕生。父・新松は北海英語学校教師。「日本の女性も家事、育児だけで終わらずに、広く社会と歴史の発展に目を向け、男子と人格上平等でなければならぬ」（桟敷よし子『永遠なる青春——ある保健婦の昭和史』）の願いを託され、ジョセフайнと命名、後の父の思想を受けついだ社会運動の実践者である。

男子の北海中学校辞職後の暮しは一変し琴似村（篠路）の開拓農家。栄養失調により兄姉15人のうち8人が乳児のまま死亡。その弔いの体験が母志乃の悲しみとともに保健婦活動の原点ともなった。

父の北海中学校辞職後の暮しは一変し琴似村（篠路）の開拓農家。栄養失調により兄姉15人のうち8人が乳児のまま死亡。その弔いの体験が母志乃の悲しみとともに保健婦活動の原点ともなった。

桟敷の1年先輩の西村桟東洋（おとよ）清家齢が開いた学内の社会科学研究会の集まりに参加。さらに『國家と革命』を学外の東京女子大、女子医専などの学生たちと「野坂竜を中心に世田谷・経堂の土蔵」で読むようになった。桟敷も19

設したスミス先生から勧められ、同窓生から親しみを込めて「ジョゼさん」の動向に期待が寄せられている。

日本女子大・社会科学を学び、実践への助走「女子学連」

1924年、余市事業家の娘の家庭教師として、日本女子大学校（現日本女子大）進学を果たす。

草創期の社会事業部女工保全科は新進気鋭の講師陣。小石川地域の訪問調査に参加。一方で桟敷は1927年に北海道芦別「三井炭鉱」へ単独調査。学内の署名活動「女子及び16歳未満の少年の深夜業並びに坑内作業撤廃」に対し、始末書を「強要」された。

同年11月は岡山陸軍特別大演習に伴なう模範的な万寿工場倉敷労働科学研究所への侍従による視察が予定された。10月31日、10日89歳八尾市で逝去した。

翌年、世界恐慌の不景気から紡績業界は深夜業の撤廃を、操業短縮と高速機械導入による労働強化を図り、1930年は東洋モスリンなど全国の紡績工場で労働争議が頻発。倉紗では休憩時間が、知らぬ間に17分短縮となつた。

同年11月は岡山陸軍特別大演習と中国社会に貢献した。大阪に戻り、日本共産党へ復党し、晩年まで保健活動に尽くした。92年2月

26年末結成の女子学生社会科学運動連合会「女子学連」のメンバーの一人である。「女子学連」役員の伊藤千代子との遭遇は何時、何所であつただろうか。

倉紗万寿工場ストライキ

寄宿女工「621人」を指導

1928年5月、桟敷は「職業婦人」として寄宿者千名をこえる女性たちが働く倉紗紡績万寿工場の婦人寄宿舎教化主任に就いた。

3年以上勤めた女性たちへ常識講話の名目で社会科学入門を取り入れ、のちに『星』を発行する。

翌年、世界恐慌の不景気から紡績業界は深夜業の撤廃を、操業短縮と高速機械導入による労働強化を図り、1930年は東洋モスリンなど全国の紡績工場で労働争議が頻発。倉紗では休憩時間が、知らぬ間に17分短縮となつた。

同年11月は岡山陸軍特別大演習と中国社会に貢献した。大阪に戻り、日本共産党へ復党し、晩年まで保健活動に尽くした。92年2月

水野秋が「社長大原孫三郎に一矢を報いた唯一の人物」と評する桟敷は、「首謀者」数十人とともに倉紗を去つた。なお、プロレタリア文学、今野賢三『女工戦』は登場人物などモチーフが倉紗紡績議かと思われる作品である。

桟敷は大阪に着き、病弱ながら、京都の全協組織再建中の1933年に治安維持法違反により逮捕され、札幌刑務所で二冬を耐えた。東京で取得した保健婦資格を生かして、愛媛から満州の郡上開拓団の結核予防対策にあたるも、敗戦による逃避行。日本に帰国する

もあつたが、会社と警察の執拗な弾圧工作に屈服せねばならなかつた。『岡山県社会運動史』執筆の

新聞配達をしながら江南尋常小学校へ、給費生として北星女学校へ進み義務年限を小樽のロース幼稚園保母として果たした。北星同窓会誌によると、英文『国家と革命』の読書中に、北星女学校を創

春——ある保健婦の昭和史』の願いを託され、ジョセフайнと命名、後の父の思想を受けついだ社会運動の実践者である。

父の北海中学校辞職後の暮しは一変し琴似村（篠路）の開拓農家。栄養失調により兄姉15人のうち8人が乳児のまま死亡。その弔いの体験が母志乃の悲しみとともに保健婦活動の原点ともなった。

桟敷の1年先輩の西村桟東洋（おとよ）清家齢が開いた学内の社会科学研究会の集まりに参加。さらに『國家と革命』を学外の東京女子大、女子医専などの学生たちと「野坂竜を中心に世田谷・経堂の土蔵」で読むようになった。桟敷も19

大講堂に籠城した。切り崩しを許

さない結束と倉紗一般労組の支援もあつたが、会社と警察の執拗な弾圧工作に屈服せねばならなかつた。『岡山県社会運動史』執筆の

水野秋が「社長大原孫三郎に一矢を報いた唯一の人物」と評する桟敷は、「首謀者」数十人とともに倉紗を去つた。なお、プロレタリア文学、今野賢三『女工戦』は登場人物などモチーフが倉紗紡績議かと思われる作品である。

桟敷は大阪に着き、病弱ながら、京都の全協組織再建中の1933年に治安維持法違反により逮捕され、札幌刑務所で二冬を耐えた。東京で取得した保健婦資格を生かして、愛媛から満州の郡上開拓団の結核予防対策にあたるも、敗戦による逃避行。日本に帰国する

もあつたが、会社と警察の執拗な弾圧工作に屈服せねばならなかつた。『岡山県社会運動史』執筆の